

ジャマル・アルハッジさんが釈放されました！



釈放されたリビアの良心の囚人ジャマル・アルハッジさんは、カダフィ大佐への批判を長年続けてきました。ジャマルさんは7か月にわたリアブサリム刑務所の独房で厳しい思想矯正を強いられていましたが、8月24日に釈放されました。

ジャマルさんは、「アムネスティへの感謝は言葉では言い表せません。何年にもわたって私の状況に世間の目を向けさせてくれた方々に感謝します」と面会したアムネスティのスタッフに語りました。

2011年2月1日、ジャマルさんは交通事故を起こしたという名目でリビアの治安当局に逮捕されました。彼は以前、反政府活動呼びかける記事を海外のウェブサイトに投稿していました。ジャマルさんは3か月間、トリポリのナスル諜報機関の劣悪な独房に収容され、外界との接触を一切断たれました。「トイレは独房の中でしたが換気装置がなく、毛布には囚人の血痕がついていました。虫が這い回っていましたが掃除用具はなく、真っ直ぐに立っていることもできませんでした」

一度、ジャマルさんは独房から連れ出されて取り調べを受けましたが、取り調べ中はずっと目隠しをされたままで、NATOの軍事行動を求め、デモを煽動したと非難されました。後に移送されたアブサリム刑務所では、他の囚人と一緒に狭い独房に入れられ、体を横にすることもできない環境で3か月も過ごしたため、今でも胸や背中のに苦しんでいます。

「ある指導者が権力の座に留まる期間は何と長いのでしょうか。私たちは自由と人権を求める人びとを支援しなければなりません。無実の人びとの権利が侵害されれば、我々はそれがどこであろうとも、彼らを守るために立ち上らなければなりません。」

2007年2月から2009年3月まで、ジャマルさんは反政府運動への非人道的な弾圧に反対するデモを呼びかけたことからカダフィ政府によって拘禁され、2009年12月には拘禁中の虐待に抗議したために、さらに4か月間拘禁されていました。

マリアム・バルマンさんが釈放されました！

イランにおける女性の権利を訴える活動家のマリアム・バルマンさんがシーラーズ刑務所から保釈されました。7月に検察が釈放命令を出したにもかかわらず、拘留が続いていました。

マリアムさんは、2011年2月22日からNYで開催された第55回国連婦人の地位委員会で「ジェンダーの側面から見たイランの情報とコミュニケーション技術」について意見を述べた後、5月11日、逮捕されました。7月4日から5日にかけて、マリアムさんは弁護士同席の下、検察から尋問を受けました。取り調べの容疑は「国家反逆罪」、「体制批判」、「誤情報の流布」、「抗議行動への参加」、「最高指導者への侮辱」でした。

アムネスティは、マリアムさんを良心の囚人と認定し、彼女の表現と結社の自由に関する権利を守るために運動を展開してきました。マリアムさんは、今後もまた、これらの容疑でいつ裁判にかけられるか分かりません。アムネスティは、彼女が有罪判決を受けたり収監されたりした場合には、再度、釈放を呼びかけます。

アルクセイ・ソコロフさんから手紙が届きました



「ロシアで人権を守るのは、何と難しいことでしょうか。」

法を無視した、権力者による体制に立ち向かうべく、私は人権を守り、自由を奪われた人びとの正当な権利のために働くと決めました。

2005年、私たちは有罪判決を受けた人びとのために人権団体を立ち上げ、スヴェルドロフスク地方にある刑務所や収容所での惨状を訴えました。そこでは、人間の権利や尊厳を放棄させるために、暴力によって囚人たちの気力を破壊し、命を奪っています。私たちは民事訴訟を起こすことで、この問題に対する世間の注目を集めたいと考えています。

2010年5月、複数の受刑者からの矛盾した証言に基づいて、嫌疑が捏造され、私は禁固5年の判決を受けました。その後、上訴審でクラスノヤルスク地方に移送されて、2年服役することになりました。服役中に両親が亡くなりましたが、葬儀に参列することは認められませんでした。これが、紛れもないロシアの懲罰システムの全容なのです。

市民の方々の支援がなかったらと考えると、ただ恐ろしくなります。支援の手紙や葉書がヨーロッパやロシアから両手で持ちきれないほど届きました。このような支援を受ければ、人は、この逆境や困難は人生で誰もが通る一時的な試練だと考えることができるようになります。手紙に書かれた優しい言葉があったからこそ、私はこの苦しい状況乗り越えることができました。私の状況に関心を持ち、未だに続くこの状況下にありながら私や家族に尊厳を持たせてくれたすべての人びとに感謝します。

この経験を経て、私は多くの友達と同志を得ました。市民や人権擁護団体の皆さんのサポートがあったからこそ、私は失望や将来への不安を乗り越えることができました。」

チョウ・ホシュンさんからの感謝のメッセージ

「これこそが真実の愛です。ご支援に感謝します」と、緊急行動の対象となっている台湾のチョウ・ホシュンさんが、世界中から届いた支援の手紙への感謝を、訪問したアムネスティのスタッフに伝えました。

チョウさんは不当な裁判の末、1989年に死刑判決を受けました。8月25日に検察総長は再審のための特別上告を棄却しました。

チョウさんは1988年に、ルー・チェンの誘拐殺人とコー・ホン・ユーランの殺人という2つの容疑で逮捕されました。共犯者とみなされた他の被告人11人は懲役刑を受けましたが、すでに出所しています。彼らは、4か月にわたって独房に拘禁され、拷問によって自白を強要されました。しかし、のちに全員が自白を撤回しています。チョウさんだけが死刑判決を受けて23年間も収監されたままです。

1994年、取り調べ担当の検察官2人と警察官10人が、拷問による自白の強要で有罪判決を受けています。さらに2003年には、ルー・チェンに対する誘拐殺人事件について、別の死刑囚が執行直前にルー・チェンの殺害を供述した、という事実を警察当局が隠蔽していたことも認めています。

パキスタン大使館から手紙が届きました！

2004年6月25日に失踪したアティクル・レーマンさんの事件についてのUA会員からのアピールに対し、パキスタン大使館から回答の手紙が届きました。

レーマンさんは、自身の結婚式の当日に失踪したまま行方が分からなくなっており、アムネスティでは、2009年11月号のニュースレターのワールドワイドアピールでもこの事件を取り上げました。

手紙では、レーマンさんが地元当局により逮捕されたという証拠は無いとしています。引き続き「強制失踪調査委員会」が彼の行方を調査するとしています。

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F
TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778
E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA年会費 3000円
郵便振替 00120-9-133251
加入者名 社団法人アムネスティ・インターナショナル日本